

# 川上様の胸騒ぎ



illustration : sakuma kana

川上様(92歳)はJ R品川駅のそばにある大きな材木問屋の御隠居様でいらっしやいます。

御子息様が御誕生になりまして、一人で一人お嬢様と番頭さんとを養子縁組させてお店をお嬢様にお譲りに

なつたのでございます。

しかしお嬢様のお立場に立てば、番頭風情に大きな顔をされたくないと、早朝から夜遅くまで御自分がお店の先頭に立ち、御自分で取り仕切られて一生懸命に立ち働かれたのでございますが、やはり男

のお子様がお生まれにならず、二代続いて一人お嬢様だけの御家族となつたのでございませう。

若奥様は娘には近代的な教育を受けさせて、番頭さんなんかではない立派な殿方と結婚させて、お店も近代的な商

社に発展をさせたいと考えられ、ゆくゆくは娘にアメリカの大学を卒業させねば……と考えられたのでございます。

そのため、夏休みをアメリカの家庭にホームステイさせる語学研修所に語学教習を申込まれ、御隠居様をシルバー

ヴィラ向山に預つてもらうことにお決めになりました。

御隠居様がシルバーヴィラに御入居になりましたから毎日、お嬢様は学校の帰りにお祖母様をお訪ねになり、遅くまで話し込まれてからお帰りになるのでございます。

私どもが拝見しておりましてもお祖母様大好きというところが良く解ります。

いよいよアメリカのホームステイ先が決まり、明日の午前中にアメリカに向けて出発されますことが決まりました日にもお嬢様は、「私がアメリカに行っている間にお祖母さまが死んでしまうので、もう私とは会えなくなる」とそれは「別れを惜しまれ、お祖母様の手を握ったり、指をからませたり、背中をさすったりと、異常に思われる程別れを惜しまれるもので、とうとう私も「お嬢様!!お祖母様は御健康でどこもお悪い処がございません!!間違つてもお嬢様がアメリカで研修をしておられます間に御他界になられることなどございませぬ。私が保証いたします。御安心くださいませ」と申し上げたのでございます。

そして、「明日はアメリカにお立ちになるのでございますから、もうお帰りにならないとお母様がお心配になります。お帰りに戻ります」と、声を荒げてお帰りにいただいたの

でございます。

それから二週間近く経過しました夜の十時頃、川上様が私の事務所までトコトコと歩いておいでになり、「岩城さん、何だか変なのヨ!!急に背中が重くなって寝つかれないの!!ちょっと見てくださいナ!!」と言われます。

私はいつも夜中の十二時頃迄は事務所のデスクの前で書き物をしながら、何かちよつとしたりでも対応できるように起きておりますから「ハイハイ」とお背中をさすったり撫でたりしてみました。何も付いておりませんでした。「大丈夫!!何も付いておりませんヨ。もう夜ですからお休みにならないと駄目でございますヨ!!」とお部屋までお送りして、ベットに横になられたのを確認して事務所に戻りました。それなのに五分後には川上様はトットと歩いて私の処までおいでになり、「岩城さん!!やっぱり変なのヨ!!背中が重くて寝つかれないのヨ!!」と云われます。私の方がヤレヤレで「大丈夫でございますヨ!!何も付いてませ

ん」とお部屋までお送りしまして、今日の日誌をつけようとして、今日三回目です。本日にヤレヤレで、どうされたのかと、私のほうがイライラしてしまつたのでございます。

そして朝の七時、電話のベルでございます。こんなに早朝に、何事かと受話器を取り上げましたら川上様の若奥様でした。「すみません。アメリカに語学留学をさせている娘が昨夜アメリカで交通事故で即死したとの報告で、そのニュースが朝のNHKのニュースで流れますので、母にはニュースを見せないようにお願いします」との事でした。

「ビックリ!!川上様のお部屋に走りまわりました。ドアを開けてみしたら、川上様はベットのうえで、どこにあつたのでしょうか、今まで一度も見たこともないお嬢様の大きな写真を胸に抱いて横になつておられました。昨夜の川上様の背中の重みは、お嬢様の魂がアメリカから飛んで来られたのだと確信したのでございます。私の母親は無神論者でしたが

本当にお祖母さまが大好きでおられたのだナア!!とお嬢様の想いが私の胸の中でジツクリと広がっていききました。私達は川上様のお嬢様の分まで一生懸命にお世話をしよう!!と決心をしました。川上様のお嬢様が私のすぐ横で見えてくださるのだと確信したのでございます。

お嬢様!!川上様はお元気でいらつしやいますヨ!!今朝もお食事を全部きれいに召上がりました!!今日はお天気が良いので「午後からお散歩に行きましょう!!」とお約束をしましたヨ!!私は横にいらつしやる川上様のお嬢様とお話をしながら、お嬢様と一緒に川上様のお世話をさせていた

だいております。

岩城祐子

大正13年栃木県生まれ、昭和54年に都市型有料老人ホームの先駆けとなる施設を開設。平成13年に特別擁護老人ホームを、平成18年に高齢者長期滞在型ホテルを開設。独特の語り口調が特徴で、著書多数。